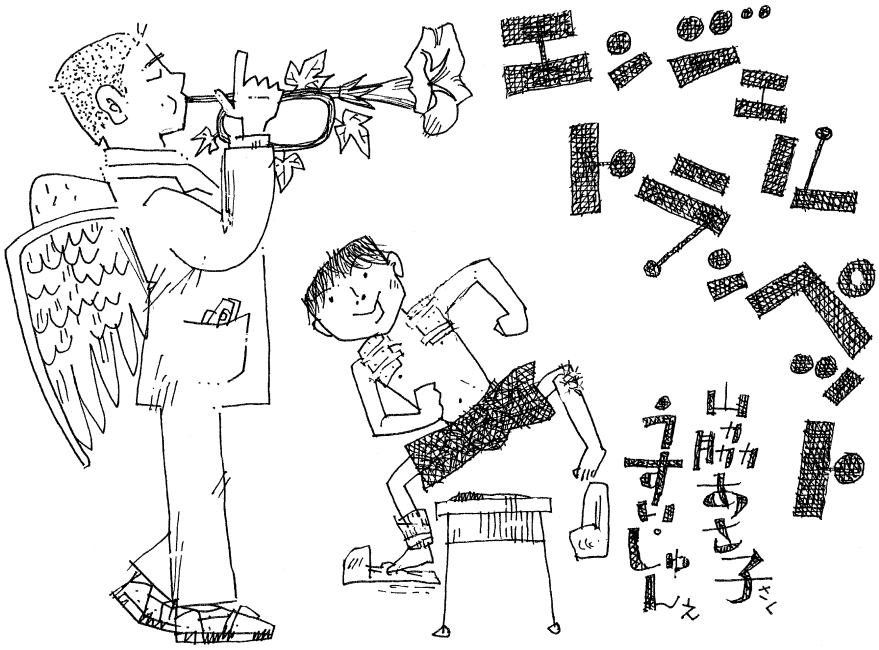

なんだか頭が痛い。
ま、いいか。学校行かなくちゃ。
マンションのエレベーターで、坊主頭の神田さんといっしょになった。となりの家のお兄さんだ。
「おはよう」
声をかけてくれた神田さんに、ぼくは大きなあくびでうなずいた。

「お、エンジェルトランペットだ」
神田さんが、玄関ホールの鉢植えを指さした。白い大きな朝顔の花がいっぱい、たれさがって咲いている。新しい鉢植えだ。ホールの鉢植えはときどき入れかわる。
「天使がラッパを吹いてるよ。目を覚ませ」
神田さんは、ぼくのランドセルをぽんとたたいた。

一時間目。竹田先生が入ってきたとき、ぼくは、机の上につっぷしてねていた。
「ユキ君、どうした？」
先生に起こされた。
「頭が痛い」
ぼそぼそっといった。
「顔色もわるいなあ。保健室へ行ったほうがいいね。保健係の人、連れて行ってあげて」